

# すっかんぽ

3月号

## 春を告げる花たち

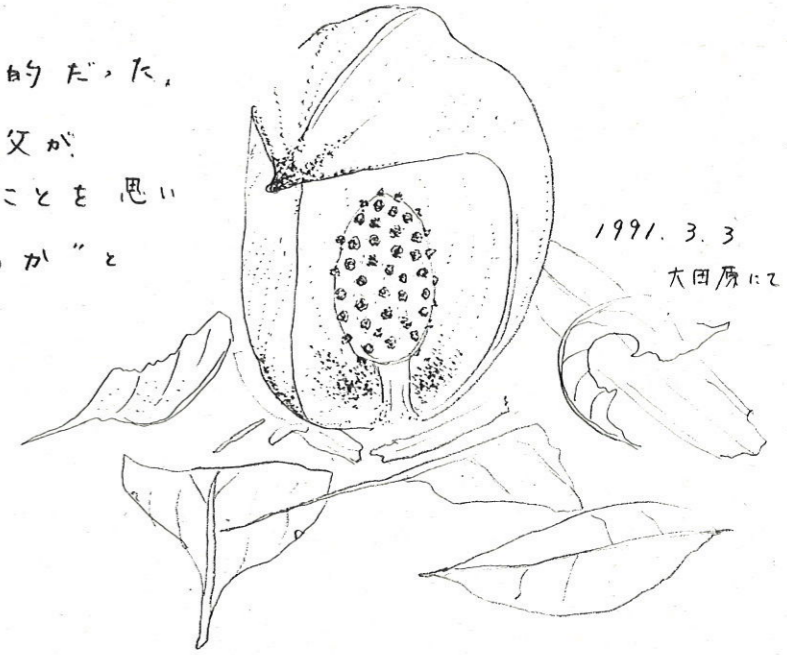
“春、ていつからはじまんなんべ?” …… そんなことを考えたことは、ないだろうか。暦の上では、立春<sup>りっしん</sup>つまり、2月4日ごろからはじまることになっているが、寒いさかりである。しかし、どんなに寒くても、道ばたで若芽が顔を出しているのを見ると、やはり、春なのか、と感じてしまう。今回は、そんな春を告げる花をいくつか、紹介したいと思う。

### 2月下旬 座禅草 (ザゼンソウ)

尾瀬のミズバショウはよく知られているが、このザゼンソウは、ミズバショウと同じサトイモ科の植物である。わりとじめじめしたところを好み、土の中からいきなり、花が、におきりはえてくる。まん中にある卵形のものが花のあつまりで、それが1つの花である。また、下に落ちているものは花粉である。全体をおおっている部分は、仏炎苞<sup>ぶつえんぽう</sup>と呼ばれる。多分、この仏炎苞の中で仏さまが座禅を組んでいるようにみえたのだろう。

ところで、この座禅草は、秋山川の上流でもみられるが、今回スケッチしたものは、大田原の自宅近くのものである。はじめ、その自生地に佐高の理科の先生方で行ってみたのだが、きれいに木道<sup>きどう</sup>が

整備されていたのが印象的だった、子どものころ、元気だ、と祖父が木道づくりを手伝っていたことを思いだし、“あー、ここだったのか”と糸内得した。



1991. 3. 3  
大田原にて

### 3月下旬 カタクリ

佐野は最近、カタクリで全国的に売られているので、君たちも知っているかもしれない。今は、その花が有名だが、昔は、根からでんぷんつまり「カタクリ粉」をとっていた。名前は残っているが、現在、売られているのは、ジャガイモのでんぷんである。

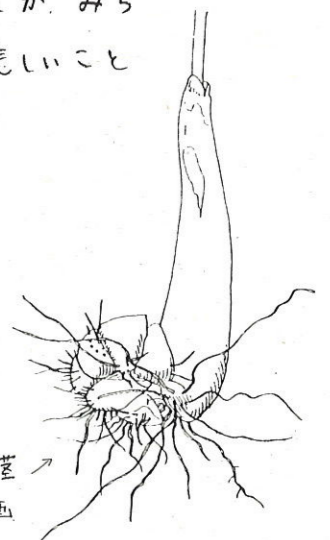
三義山には、かつてカタクリの自生地が、何ヶ所かあったそうだが、野草ブームの時に、根こそぎもていかれ、一ヶ所を残し、全滅してしました。

放っておけば、そのままなくなる運命にあった。カタクリをよみがえらせたのは、地元の人達の努力であった。……しかし、

どこの山でも、あたり前に見られたカタクリが、このあたりでは、三義山でしかみられなくなったのは、やはり、悲しいことである。



1991. 3. 21  
三義山にて



カタクリの根茎  
牧野画